

わかった！できた！



令和元年7月3日 No.3

○「学力フォローアップ校事業」第2回校内研修がありました。

令和元年6月28日（木）に第2回目の校内研修がありました。

今回は、5年1組で「式と計算」の授業を通して、児童が「わかった・できた」を実感できる授業づくりについて、タブレットを活用しながら研究協議を行いました。研修で得た成果や課題をこれからの取組に生かしていきたいと思えます。

研究協議（○成果 ▼課題）

- 学習規律がしっかりしていて学習テンポがよかった。
- 話し方を示したカードが提示されていたため、よい発表の仕方が明確であった。
- 黒板上部に1時間の流れが示されていたため、見通しを持って、安心して学習に取り組めた。
- ワークシート2種類準備したことで、自分で選択して取り組むことができた。
- ペアトークを取り入れたため、自分の考えを分かりやすく説明するというめあてを意識させることができた。
- 学習に向かう姿勢が身につけており、みんなでゴールに向かっていった。
- ▼学習についていけない児童、自信のない児童への支援を友だち同士でできるとよかった。
- ▼話し手と聞き手の言葉のキャッチボールを仕組むことも必要である。
- ▼授業のまとめをどのようにするのかよく検討する必要がある。
- ▼式読みと式作りの違いがわかっていない児童がいた。その違いを明確にする必要がある。



指導助言

(義務教育指導課 玉木 昌知 指導主事)

- 阿品台東小は研究組織体制が整っている。
- 阿品台東小のよいところは、すべての先生が課題のある児童を気にかけているところです。
- 担任以外からの評価があるとどんどん伸びていくのでよさを認めていってほしい。
- 安藤先生の授業を見てよさに気付いたら、それを自分の授業に取り入れてほしい。取り入れる際に学校全体で取り組んでいくことが大切。
- 授業の中では、「見通しがもてる」ことが一番大切。見通しが持てると児童は安心して授業に取り組める。
- めあてのなかに「何ができればいいか（最終的な姿）」と「何を使ってやればいいのか」を明確にすることが必要である。今回のまとめを「式に意味がある」ということにすれば、式は考え方を表す・思考の順序を表すことから（ ）やかかけ算わり算を先にするんだよということにつなげることができる。

